

第3時間目 「製図法を学ぼう2・等角図」展開案

(1) ねらい

製図見本の立体を、等角図法に則って表現させることにより、等角図法の基礎を理解させ、製図技能の習熟を図る。

OneUp シートの学習記録や個人内評価の様子をもとに、学習による自己の変容を感じさせ、学習成果に自信を持たせる。

(2) 準備

(教師) OneUp シート、製図用立体(人数分)、製図用紙、提示用製図見本

(生徒) 三角定規、直定規、分度器、鉛筆、ディバイダ(コンパス)

(3) 展開

学 習 活 動	時間	支援及び留意点	評価項目と方法
学習係が、事前に OneUp シートを、個々に返却しておく			
本時の学習内容を知り、学習のめあてを持つ。	5分	製図能力の向上を確認する視点を持って本時の学習に取り組むようにさせる。	【生活の技能】 【B 規 準】図法にしたがって、立体を図面に描き表すことができる。
等角図の描き方を知り、製図見本の立体を等角図法によって図で表現する。	40分	キャビネット図法との違いを説明しながら、等角図法の特徴を明らかにする。 水平線とそれに直交する垂直線の交点から左右に30°の基準線を引き、縦線は垂直線に、横線は基準線に平行になることを意識させるようにする。 斜線の引き方に注意させる。 外形線をなるべく太く描かせる。 ノートや OneUp シートなどで、図法を確認させる。 机間巡視によって、学級全員の取り組みを見取る。図の仕上がり具合を、言葉がけによって評価する。 周囲の生徒からの支援も積極的に活用させる。	【A 規 準】倍率や画面の配置などに配慮しながら、図法にしたがって、立体を図面に描き表すことができる。 (観察・作品)
OneUp シートに、本時の学習を記録したり、「図を描くこと」に対する意識の向上を、グラフにとったりコメントとして記録したりする。	5分	肯定的に自己評価出来るようにさせる。 自分の変容を適切に見取ることができない生徒には、教師が言葉がけを行い、自覚を促す。(それ以前の学習の中で、ふり返しシートなどを通じて技能の上達や意欲的な取り組みなどを積極的に認め、評価するようにする。)	【関心/意欲/態度】 【B 規 準】OneUp シートに自己の変容を肯定的に記載することができる。 【A 規 準】OneUp シートに自己の変容を肯定的に記載することができ、今後の学習に意欲を示した記述ができる。 (OneUp シート)
学習係が、OneUp シートを回収する。			